

第22号

町自連まつえ

平成31年3月31日発行 発行／松江市町内会・自治会連合会

いあいまつ

松江市町内会・自治会連合会

会長 寺本修己



平成三十年度「町自連まつえ」発行にあたりご挨拶申し上げます。

市民の皆様には日頃より、町内会・自治会活動に多大の協力をいただき心より御礼申し上げます。昨年においては全国いたるところで、自然災害が発生しました。身近なところでは県西部で地震による大きな災害にみまわれました。松江市においては、豪雨により避難勧告が出される事例がありました幸いに

松江市長挨拶

松浦正敬



町内会・自治会、そして市民の皆様方には、日頃より松江市政に対しましてご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

今年、「平成」が終わりを告げますが、平成の時代は、阪神・淡路大震災、東日本大震災や西日本豪雨など様々な災害が発生し、市民生活にとつて、「安心・安全」がいかに重要であるかを再認識いたしました。

災害発生直後に行政ができることには限りがあります。市は、過去の災害の教訓から防災訓練等を行っておりますが、

も大事に至りませんでした。今後、南海トラフ大地震などの発生が懸念されていますし、災害は突然襲って来るものとして私達はその備えを常日頃より怠らないようにしなければなりません。

災害発生時には町内会、向こう三軒両隣においての自助・共助そして地域の絆など日頃から自然に行動できるための住民意識の醸成の大事さは、実際に災害に直面された地域住民の皆さんの意見・感想に表れています。今後は、災害時に自分の身は自分で守ることを第一にしつつ日頃の備えをしていきたいと思います。

最後に、改元を迎えるこの年が皆様にとって良い年になりますようお祈り申し上げます。ご挨拶いたします。

市民自らが「自分の命は自分が守る」意識を持つていただき、万が一に備え、地域で互いに助け合うことができるよう、顔の見える関係を築いていただきたいと思います。お祈りします。

各町内会・自治会等では、自主防災組織の立ち上げや、要配慮者支援の組織化にも取り組んでいただいております。加えて、新聞の販売所と連携し、配達網を活用した高齢者世帯の見守り活動を行うなど、地域の实情に則した安心・安全の取り組みを行っております。

市といたしましても、皆様方の活動と連携し、町自連の皆様様の活動の支援を引き続き行っていきたいと考えておりますので、今後とも、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

ホーランエンヤ開催

松江城山稲荷神社年神幸祭「ホーランエンヤ」が、平成三十一年五月十八〜二十日に開催されます。

現在、五大地（馬潟、矢田、大井、福富、大海崎）では、本番の演舞に向けて稽古に励んでいるところです。

色とりどりに装飾された各地区の權伝馬船の総数は百隻におよび、大船行列を作る壮大な姿と船上で披露される華麗な踊りが楽しめます。

十年に一度の船神事ですので、是非お出かけいただき、壮大な姿をご覧ください。



本番に向けた稽古の様子

(竹矢地区自治協会)

角田一雄

(朝酌地区町内会・自治会連合会)

森江和吉

松江市町内会・自治会連合会はこれからも様々な課題に取り組みますのでよろしくお願いたします。

(平成三十年度役員一同)



会長
寺本 修己
(美保関地区)



常任理事
花谷 耕三
(古江地区)



理事
野津 厚
(生馬地区)



理事
中島 秀夫
(川津地区)



副会長
勝部 廣三
(玉湯地区)



常任理事
竹内 保雄
(雑賀地区)



理事
吉岡 繁春
(秋鹿地区)



理事
林 繁幸
(八雲地区)



副会長
小數賀安富
(法吉地区)



常任理事
森 正剛
(津田地区)



理事
折田 昌弘
(城西地区)



理事
角田 一雄
(竹矢地区)



副会長
亀城 幸平
(鹿島地区)



監事
松本 光弘
(朝日地区)



理事
中西 正昭
(城東地区)



理事
山本 茂樹
(古志原地区)



副会長
松浦 正明
(東出雲地区)



監事
藤原 二郎
(島根地区)



理事
仙田 一吉
(乃木地区)



理事
安田 勉
(白潟地区)



常任理事
松浦 久義
(总部地区)



理事
月坂 守保
(本庄地区)



理事
梶谷 均
(宍道地区)



理事
白石 照雄
(城北地区)



常任理事
井上 寛巳
(持田地区)



理事
安部 吉輝
(八束地区)



理事
村島 勲
(大庭地区)



理事
森江 和吉
(朝酌地区)



理事
岩成 貞幸
(大野地区)

視察研修の受入

愛知県大口町区長会

十月三十日、姉妹都市である大口町区長会から、十一名の区長が来松されました。

研修では、町自連の概要と各地区の活動状況について会長、副会長から説明し、地域の状況について意見交換しました。

(事務局)



意見交換会の様子

防災への取り組み

神戸・徳島の 防災関係施設を視察

今年も、大雨や地震により各地で大変な被害が発生しました。地域の実情を把握している町内会・自治会連合会として、災害を少しでも軽減するため、各地の防災施設、取り組みなどを見聞きし、今後の地域防災活動に生かすため視察を行いました。

人と防災未来センター

十一月七日・八日の日程で貸切バスにて目的地へ出発しました。

初日の視察は、神戸市にある「人と防災未来センター」四階の震災追体験フロアにて、阪神、淡路大震災の地震破壊のすさまじさを大型映像と音響で体験、震災直後のまち並みをジオラマ



資料室を見学



防災出前講座の様子

徳島県立防災センター

人を、直面する課題とともにドラマを見て改めて災害の恐ろしさ、復興への道程の大変さを改めて感じました。一階で被災者の一級建築士から見た体験談を聞き、日本建築の常識「南向きの家」の壁が少なく断層に一番弱い事など、生活様式と減災をどう調和させていくのか難しい問題もあることも解かりました。

翌日は、徳島県立防災センターで「とくしまー〇(ゼロ)作戦」防災出前講座の基本講座(地震、津波の特徴、家庭・地域でできること)そして災害時の要支援者対策について受講しました。近い将来発生すると想定されている南海トラフ巨大地震による津波浸水

想定を明示するなど住民への意識付けや、「徳島県国土強靱化地域計画」を策定し「致命的な被害を負わない強さ」と「速やかに回復するしなやかさ」を持つて「安全安心な徳島」にむけて、自分の身は自分で守る「ダンゴムシ作戦」などの自助七割、自主防災、事業所、学校教育など共助二割、避難所整備、市職員の防災士取得などの公助一割を県知事が先頭に立って地域住民に日頃からの取り組みの重要性を発信しています。



施設で、さまざまな体験

(視察研修プロジェクト)
勝部廣三、亀城幸平、松浦久義、
竹内保雄、藤原二郎

原子力発電所を視察

島根原子力発電所

福島原発事故を教訓に様々な事故発生防止の安全対策が行われ、訪れるたびに敷地内の景色は変わっています。今回は、後ろの山、安全対策のための設備敷地の拡大や火災延焼対策工事の様子でした。

まずは、原子力館で、地震・津波に備えるための施設の免震・耐震工事や、十五メートルの防波壁、建屋施設の水密扉設置や給水施設電源確保維持の対策工事について説明を受けた後、三号機建屋内へ移動し、原子炉内で事故発生時に於ける対策「原子炉を止める、冷やす、閉じ込める」ための対策を、実物を見ながら説明を受け、安心感が増したように思ったが、これだけの安全対策が必要なのかと、怖さも感じました。

浜岡原子力発電所

静岡県御前崎市の太平洋に面した広大な敷地に、一号機から五号機の原子力発電所があり、三十キロ圏内に約八十四万人が暮らす地域です。

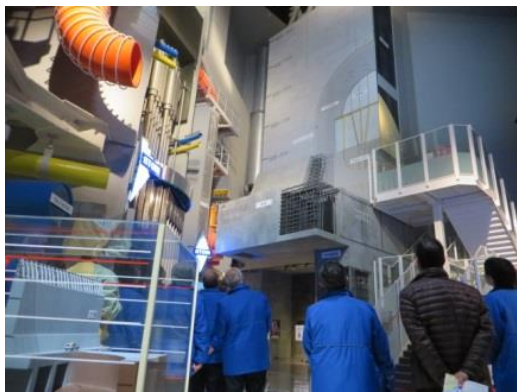
二号機は、平成二十一年から約三十年、四段階に分けて廃炉工事が開始され、現在は第二段階「原子炉領域周辺



中国電力から安全対策の説明

設備解体撤去」作業を実施しています。想定されている東海地震や東海、東南海、南海地震の三連動地震、さらに南海トラフ巨大地震に備えた対策、特に津波被害対策の二十二メートルの防波壁建設、原子炉建屋内への浸水を防ぐ対策工事、機能を失った場合の対応として「電源供給、注水、除熱」を複数の代替手段による対策が現在行われています。

ここの特徴的な対策は、従業員の意識改革を促すため、技術伝承「失敗に学ぶ回廊」施設を作り、過去に経験した事故から学び、蓄積したノウハウを風化させないため、失敗事例の原因を学ぶ研修を発電所全体で行っていることです。



展示館で防波壁の模型を見学

二つの発電所とも、原子力規制委員会による適合性審査をクリアするため様々な安全対策を実施しています。また地域住民に対しても原子力館など

を通じて情報公開を行うなどの努力をしています。我々住民も原子力発電所についてただ危険だというだけでなく、実際に原子力発電所が身近にあり、廃炉には三十年以上もかかる訳だからもっと関心を持つべきだと思います。(視察研修プロジェクト)

勝部廣三、亀城幸平、松浦久義、竹内保雄、藤原二郎

松江市三団体合同研修会

見守り・支え合いの輪

より一層広げよう

第十一回「松江市地区社会福祉協議会会長会」「松江市公民館長会」および「松江市町内会自治会連合会」の三団体合同研修が八十二名の参加により、去る十一月二十一日に開催されました。

この恒例の研修会は、合同で研修をすることにより、各地区における生涯学習、まちづくり、健康福祉などを一層充実発展させ、地域力を高め、豊かな地域づくりを資することを目的としています。



事例発表の様子

今回は、「見守り・支え合いの輪 より一層広げよう」をテーマに、松江市の取り組み状況報告を受けた後、川津地区の祖子分見守り隊・小塚昭郎氏より「祖子分見守り隊の結成と活動」について、古志原地区の古志原九区・齋藤文雄氏より「古志原九区見守り支援組織の体制と活動状況」について事例発表を受け、テーマに沿ったワークショップを九班に分かれて行いました。ワークショップは、三つのテーマについて進められました。その一つ「見守りの仕組みを全市に広げるため」に話された一部を紹介します。

- ①見守り側の人材育成 ②組織を立ち上げる ③地域・個人の意識を高める
- ④担い手の確保 ⑤(福祉)勉強の場をつくる ⑥短期的に結果を求めず、地域の実情に合わせた地道な活動等を全体の共有事項として各地区で活動することを確認し終了しました。



ワークショップの様子

(事業担当者)
亀城幸平、花谷耕三、竹内保雄

お知らせ

「町自連のホームページ」が
できました

地域を元気にする活動、災害に備える活動、まちをきれいにする活動、若いお母さんの子育て交流など、私たちの身近な活動をホームページ(HP)で紹介できます。

各地区の行事予定などお知らせします。幅広い人との出会いや交流に利用できます。

これまでの町自連の活動も過去にさかのぼってご覧になれます。

HPに載せてほしいこと、知りたいことは町自連事務局にご連絡ください。



「松江 町内会 自治会」で検索!!

(編集)「町自連まつえ」広報担当
町自連事務局 伍五五―五―一六九
(松浦正明・松本光弘)
(松江市市民生活相談課内)